

役員紹介



7 5 1 3 4 2 6 8



1 代表取締役社長
高橋 弘二

社長室、
秘書室、
内部監査室、
生産企画室担当

2 代表取締役専務
中村 一男

生産機構総括、推進機構総括 /
総務・人事本部、
広報本部、
購買本部、
海外事業本部、
CSR・リスク管理推進本部担当
最高情報セキュリティ責任者

3 社外取締役
瀧野 裕之

4 社外取締役
山田 恒太郎

5 取締役
榎原 俊哉

推進機構担当 /
事業管理本部、
経理・財務本部、
情報システム本部担当
最高財務責任者

6 取締役
齋藤 修

生産機構担当 /
各製造事業所
施設・設備本部担当
CSR・リスク管理推進本部本部長

7 取締役
多田 和資

事業機構総括 /
全事業部担当

8 取締役
小城 義尚

技術機構総括 /
技術管理本部、
合成研究本部、
分散研究本部担当

CONTENTS

役員紹介／目次／編集方針	01
トップメッセージ／企業理念	03
私たちが大切にしてきたもの	05
私たちが提供する価値	07
会社概要／連結決算ハイライト／TOPICS	09
事業部紹介	10
研究開発部門紹介	13
社会性報告 CSRとマネジメント	15
社会性報告 お客様とのかかわり	19
社会性報告 地域社会とのかかわり	23
環境性報告 環境マネジメント	25
大日精化グループネットワーク	30

編集方針

当社は2005年度から「環境報告書」を、2010年度から「社会・環境報告書」を発行してきました。2013年度からは会社案内の機能を追加して「コーポレートレポート」と改称しました。本レポートはステークホルダーの皆様に、当社グループの事業内容とともに、社会性及び環境保全活動に対する考え方と取り組みをわかりやすくお伝えできるように作成しています。

● 報告対象範囲

当社及び当社国内グループを対象としています。環境性報告は当社及び当社国内グループの生産・サービス拠点15ヶ所の実績を掲載しています。

● 報告対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日
※ただし、一部事柄については、本対象期間外の活動も含みます。

● 参考ガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン 2012年度版」

CSRとイノベーションで 社会貢献できる会社を目指します。



代表取締役社長

高橋 弘二

「人財」について

今年のトピックスとして、働き方改革が挙げられます。企業は時間外労働の削減が求められる一方で、従業員は与えられた時間を有効に使い、より高い成果を生み出していく工夫が求められています。

大日精化グループの企業風土のひとつに「家族主義」があり、この風土の一端が新卒者の3年後の在籍数を表す「新卒3年後定着率」に表れているように思います。これは単に面倒見がよいということではありません。先人の知恵を使いながら、企業とそこに集う人が一緒に成長していく、その幸福感を共有できる環境であると考えています。

企業は人が動かすものであり、従業員には「組織だけの歯車になるな」と言ってきました。人はその動機付けによって、さまざまな行動を進めていくものです。

変化する経営環境に対して

当社の対応すべき経営課題として、「海外売上高比率50%の達成」「国内生産体制の拡充」「発展分野研究開発への注力」「ERPシステム導入と物流システムの合理化」を掲げました。この対応には「人財の活用」が必要です。創業者である高橋義博は「いかなる場合にも、謙虚に自らをみがき、高められた人格と人格のふれあいが業務を向上させ、そういう不断の努力が一見不可能と思われることを実現させる」と言っています。昨年改訂した企業理念を通して「人財」のあり方を改めて共有し、そこに集う従業員と課題解決していくとともに、独創的な技術を創出して、それに基づく新しいビジネスで企業を発展させ、事業を通して新たな社会貢献を進めていく、この理想を持って、当社グループを取り巻く環境の変化に、スピード感をもって対応していきます。

コーポレートレポート発行に際して

CSRという言葉が一般的になっているいま、その責任と結果がESG投資という形で注目されています。大日精化グループでも、企業理念や社はとCSR基本方針のもと、「安全衛生」「地域交流」「環境管理活動」などの非財務情報を本書にまとめています。ステークホルダーの皆さんには、当社が「信頼できる会社」であり、さらに企業価値の向上を目指している姿をご理解いただきたく一助として、本書をご高覧いただきたいと思っています。

皆さんには、忌憚なきご意見をいただきますよう、お願ひいたします。

2017年8月

2016年1月改定

企業理念

- 人に興味を持とう
- 新しいことに興味を持とう
- 未来に興味を持とう

行動指針

- 人間は面白い。
その面白い人間が作っているのが企業であり、また顧客です。
全ての経済原則、経営理論は、人の行動原理に基づいています。
人に興味を持とう。
- 新しいことはワクワクする。
技術革新や商品開発は顧客や市場を開拓すると同時に、人間も活性化します。
新しいことに興味を持とう。
- 未来を考えることは楽しい。
未来は子供たちのものです。
未来を考えれば、人も企業も自分だけでは生きて行けないことが分かります。
顧客の発展が無ければ、当社は富んでも長続きしません。
更に、社会に生かされなければ、人も企業も存続し得ません。
未来に興味を持とう。

一方、当社には1968年に制定した、社は「必達」が存在します。
上記の企業理念と共に、歴史ある社は「必達」を誇りを持って遵守しています。

社は

必達

私たちはカラーエージュをになう大日精化の社員として
(必達)の社はのもとに誇りを持って仕事をすすめよう

- 1、仕事は必ず目標を立てこれを必達しよう
- 1、正しい製品知識を身につけ製品普及のチャンスを積極的に求めよう
- 1、仕事を通じて製品を通じて会社の信用を更に高めよう
- 1、社会人として常に教養を高め反省を深める機会を持とう
- 1、仕事を通じて社会に貢献し大日精化を最高の企業体としよう